

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原(1F)		
所在地	各務原市那加桐野町7丁目44-1		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyouyoCd=2190500153-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyouyoCd=2190500153-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年7月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日を」の理念の基、利用者様と職員が共に生活を楽しくしている。イチゴ狩りやお花見、一泊旅行の外出行事、幼稚園との交流など、多彩な行事を取り入れて日常生活に潤いを持たせている。また敷地の畑で採れた野菜はホームの食卓を彩り、季節感を引き出している。地域交流の面では自治会に加入し、地域役員、消防団、消防署と連携をとった避難訓練を行ったり、ボランティアの受け入れをして年々交流が密になってきている。家族様の面会も多く、家族様と利用者様の絆を大切に考えながら職員もその絆の一端となって支援を行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、道路に面しているが、騒音もほとんどなく、庭のフェンスには布団やシーツが爽やかな風に吹かれ、家庭的である。毎年、恒例の一泊旅行へは、家族も参加し、互いに利用者を支え、旅行の楽しさを味わっている。近隣の幼稚園との交流や、ホーム主催の夏祭りでは、地元と交流を深め、地域に密着した取り組みを積極的に行っている。重度化・終末期の対応では、利用者と家族の希望に合わせ、主治医や訪問看護師の意見を踏まえた上で、可能な限りの医療行為を提供している。日々の生活支援では、食卓を豊かにし、家族や地域住民との絆を大切に、楽しく、潤いのある暮らしを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや研修時には理念の確認を行い、常に意識できるよう各所に掲示している。理念を基として日々の生活を営み支援に繋げている。	開所3年目を迎え、地域内での様々な取り組みに関わり、理念である「心やすらぐ毎日」を、全職員が意識しながら共有している。利用者が、日々楽しく心やすらぐ生活が送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃に参加したり回覧板を通して施設行事の案内をしている。幼稚園との定期交流や小学生ボランティアの受け入れ、避難訓練など年々交流が深まっている。	自治会員として、地域の行事や会合に参加している。幼稚園児や小学生との交流も続けている。ホームの年間を通した行事には、住民や子どもたちを招待し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の職場体験の受け入れを行ったり、小学生ボランティアを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し活動状況を報告している。会議で出された意見や助言は職員に報告周知し、改善・検討・実践できるよう話し合っている。これまで散歩や体操への取り組みを行ってきた。	会議は、隔月に開催し、自治会役員や民生委員、行政、地域包括支援センターなど、幅広い参加メンバーである。家族がレクリエーション参加の希望や、草木染講師の招請、防災に関する意見などがあり、意見等を、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して活動状況を報告している。通達事項や情報提供はメールで頂いたり、相談・確認事は直接担当者に尋ねている。	管理者が、直接行政に足を運び、運営報告や困りごとを相談している。また、メールでも気軽に交信し、協力関係を築いている。地域包括支援センターとも、連絡を緊密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を研修で学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は交通量の多い道路に面している為市の要請で行っているが、ホーム内の1F2Fは行き来が自由である。	ホームは、道路沿いにあるので、安全を優先して、玄関は施錠している。身体拘束や虐待防止を研修会で学び、拘束をしないケアを全職員で周知、徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で取り上げ意識する機会を設けている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する方がみえないため、研修で学ぶにとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い契約に至っている。不明な点は再度説明を行い理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、意見はこれまですべて直接管理者と職員が伺っている。意見・要望には改善するための話し合いを行い早急に対応している。	家族の訪問時に希望や意見を聞いている。家族からは、利用者の足のむくみなど、健康不安の意見があり、改善に向けて対応している。さらに、家族から本音の意見を引き出すように努めている。	家族とは、本音の部分で話し合えるように、場面づくりを行うなど、信頼関係を深める取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで職員が意見を言える場を設けている。その場で解決できることは話し合っている。	職員会議を月に2回行い、意見や提案を検討している。職員の体調管理や心理面の課題、運営等を話し合い、職場環境の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し、資格手当を支給している。希望に合わせた勤務表作りに努めている。働きやすい職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修に参加できる機会を設けている。研修後は発表する場を作り、全スタッフに研修成果を伝え、実践へと繋げている。また施設内研修ではテーマごとに担当者を決めて学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/月の地域ケア会議に参加することで交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時や入居時に本人様と家族様から、ホームでどう生活していきたいかをお尋ねしている。また入居されてから居室担当者が決まり、安心して暮らせるよう利用者様に寄り添い信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時にお話を伺い、ホームとして最大限「できること」をお伝えして不安解消に努めている。「できないこと」に対しても他サービス利用や家族様の協力で解決できるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず関わっている他事業所と連携を取り、情報提供を受けている。それを基に本人様、家族様の意向を反映させたプランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、家事、レクリエーションを通して日常的にかかわりあう時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折には本人様の状況や変化をお伝えし、一緒に支援していけるよう協力を頂いている。面会に来られない家族様とは電話連絡やメールでの繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会がある。面会は居室や共有空間と希望に応じてゆっくり過ごしていただいている。面会時間は設けておらず自由である。	家族の協力で、本人の友人宅を訪れたり、同窓会に参加するなど、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。また、息子や娘たちが、仕事帰りに立ち寄り、ゆったりとした時間を過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士批判しあう場面もある。回避するため席替えの配慮や職員の介入でケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも一年ほどはその後のご様子を伺っている。了承があれば訪問させて頂くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を踏まえ(センター方式の活用)ながらも現在の状況と照らし合わせて本人様の意向をくみ取るように心がけている。	日々の会話や表情、行動から思いの把握に努めている。把握した趣味や得意なことは、職員と共に行ったり、本人の希望に沿いながら、自分らしい暮らしができるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族様から生活歴をお尋ねしたり、関わっている事業所からの情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が気付きを申し送りしてケアにあたっている。気付きから「できること」を発見することもある。また身体の変化には経過報告書に記し、関係者が把握できるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2回/月のミーティングを行いモニタリングしている。可能であれば本人様から直接意見を伺う。家族様からも意見を伺いながら、必要であれば医師に相談することもある。計画が機能しているか常に検討できる体制を整えている。	月に2回の職員会議で、モニタリングを行い、気づきなどを、介護計画に反映している。また、3ヶ月ごとに、本人・家族や主治医と話し合い、心身の状態も考慮し、現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気付きは経過報告書に記録し、情報を職員で共有している。常に計画を意識して支援している。問題点発生時はミーティングで計画見直しの話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームとして「できること」の支援をしている。柔軟な対応としては葬儀参列の付き添いも行っている。「できないこと」の支援にはNPO法人の支援を結びつけて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の繋がりを継続してもらい、外出される方もある。地域ボランティアも受け入れて交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更は少なく、今までの医療機関で継続治療されている。変更希望時は適切に対応している。家族様が医師に報告しやすいように通いノートを活用して、現在の状態を報告している。歯科は協力医で職員付き添い受診を行っている。	個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。協力医と連携しているが、基本の受診は家族が同行としている。ホーム内の様子と、受診後の医療情報を、家族と共有している。情報は、個別ファイルに記録し、利用者の体調管理を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職には体調変化を全て報告して相談している。経過報告書にも記録している。往診の方の場合、訪問看護師には24時間連絡がとれるようになっており、指示が仰げる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医の指示や紹介状をもらい入院治療が出来るよう努めている。入院中は訪問して情報交換し、早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っていないことは事前にお話ししてあるが、家族様の協力が得られ医師と連携できた場合で家族様の強い希望があった時、可能であったケースが過去にあった。	医療行為が発生した場合は、他施設や病院に移行としている。終末期では、家族が付き添うなどの協力を条件に、主治医の指示のもとで看取りを行ったケースがある。ただし、看取りは行わないことを原則にしている。	看取りを行わない方針でも、そこに至る重度化と終末期に関して、繰り返し、家族へ説明し、本人にとってより良い支援の在り方を、関係者で共有することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防職員から救急救命講習を受けている。研修・ミーティングでも確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年避難訓練を行っている(1回は夜間想定)自治会・消防団・消防署の参加立会いをお願いしている。職員の緊急招集に備え近隣の地理に精通するよう心がけている。	避難訓練では、消防署や自治会、地域住民が参加して実施している。避難経路の確認や誘導方法を認識している。災害時の連絡網による職員参集も周知・共有し、防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを傷つけない排泄介助を目指している。職員同士で気になることは話し合っている。反省点は研修・ミーティングで周知し、改善できるように努力している。	排泄時には、羞恥心に配慮し、尊厳を大切にしている。職員は、接遇研修で学び、自尊心を損ねない言葉かけに徹している。名前の呼び方も、本人の希望に応じて、個別の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と個人的にお話できる時間を設け、希望の表出に努めて生活に反映させている。食事内容や座席、衣類等。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別で生活が出来るよう支援している。食事も個別で摂りたい方は希望に応じている。孤立しないように声かけは必ず行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は1日の始まりの為整容に心がけている。衣装も選択できる方にはお願いしている。外出時はそのような装いを促し、外出への意欲を高めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の栽培から収穫、下ごしらえ、片づけを職員と一緒にしている。参加できない方には食事の説明をすることで楽しんで頂いている。食事の要望があれば時に応じて反映させている。	利用者の嗜好を、献立に加えるなど柔軟な対応をしている。野菜の皮むきや食器洗い、下膳を行ってもらうなど、一緒に食事づくりを楽しんでいる。食事中は、テレビを消し、利用者と職員が談笑しながら味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、少ない方には回数を分ける・嗜好品の提供・形態を変えるなどで対応している。医師とも相談し、目標摂取量を決めて支援している。時には医師から本人様に直接指示をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは非常に大切なものと認識している。毎食後の口腔ケアは習慣づいている。介助が必要な方には職員がケアしている。受診が必要な方は職員同行し協力医で治療してもらっている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや本人様の行動に注意して誘導や声かけをしている。異食があったりおむつ外しをする方には布パンツで対応している。	個別のパターンに合わせた、トイレ誘導や声かけにより、入居時より排泄の自立が高まった方もいる。職員の細やかな気配りで、パッドの使用量が削減できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、水分摂取に心がけている。必要な方には腹部マッサージを行ったり下剤の調整をし便秘の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜日以外に入浴を行っている。何らかの事情で入浴が必要な時は日曜日も行方。入浴時間はできるだけ希望に沿うように配慮しているが、夜間帯は行っていない。必要な方には職員2人体制で支援している。	入浴は、週に3回～4回としている。利用者の希望があれば、毎日シャワー浴も可能である。午後3時に、全員の入浴が終わったところで、おやつ時間を設定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・休息は個人の自由にされている。夜間眠れない方は眠れるまで職員が話し相手になっている。お茶や軽食を摂られる方もある。不安があるときは共有スペースの畳の間で眠られる方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には全職員が目を通している。薬の変更は記録と申し送りで周知している。副作用はホームの看護師の助言をもらうこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字の得意な方には誕生会の色紙書き、展示物の依頼。カラオケやゲームのレクリエーションや気分転換の買物、散歩に出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事(イチゴ狩り・花見・旅行等)への参加や、ユニットごとの外食会、買物へ出かけている。これまで課題であった散歩も定着してきた。	周辺に散歩コースを整備し、日常的に外出している。道すがら、花を摘んだり、休憩の場を設け、住民と挨拶を交わしている。花見や外食会、イチゴ狩りなどへも計画的に出かけるように支援している。	



岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでの金銭所持はないが、自ら管理したい方で管理能力のある方は家族様の同意の上で所持してみえる。買物時は自分の財布から購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の同意が得られていれば特に規制はなく希望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が入り、明るい空間になっている。車イスが往来しやすいゆとりのある設計になっている。掲示物は季節ごとに張り替え季節感を意識している。利用者様の書も展示し眺められるようにしてある。	リビングは広く明るく、車椅子でも動きやすい構造である。洗面台の高さは、口腔ケアが楽にできるように設計している。廊下の幅も広く、ゆったりと過ごしやすい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の交流関係が把握できているので、一緒に語り合える空間づくりに配慮できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具、ぬいぐるみ等の小物に至るまで居室に持ち込んで頂いている。カレンダーには家族様が予定を書き込んだりされている。	家具類は、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいる。配置は、家族と共に行い、季節ごとに彩りを工夫している。家族の写真や誕生日の色紙などを飾り、個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」の表示をわかりやすく掲示してある。入居したての時は表示を増やして覚えやすくしている。トイレには緊急呼び出しブザーが取り付けられている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原(2F)		
所在地	各務原市那加桐野町7丁目44-1		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日			

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや研修時には理念の確認を行い、常に意識できるよう各所に掲示している。理念を基として日々の生活を営み支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域清掃に参加したり回覧板を通して施設行事の案内をしている。幼稚園との定期交流や小学生ボランティアの受け入れ、避難訓練など年々交流が深まっている。散歩では挨拶を交わし時にはお話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の職場体験の受け入れを行ったり、小学生ボランティアを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催し活動状況を報告している。会議で出された意見や助言は職員に報告周知し、改善・検討・実践できるよう話し合っている。これまで散歩や体操への取り組みを行ってきた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して活動状況を報告している。通達事項や情報提供はメールで頂いたり、相談・確認事は直接担当者に尋ねている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を研修で学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は交通量の多い道路に面している為市の要請で行っているが、ホーム内の1F2Fは行き来が自由である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で取り上げ意識する機会を設けている。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在該当する方がみえないため、研修で学ぶにとどまっている。勉強する機会があると良い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い契約に至っている。不明な点は再度説明を行い理解を得よう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、意見はこれまですべて直接管理者と職員が伺っている。意見・要望には改善するための話し合いを行い早急に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで職員が意見を言える場を設けている。その場で解決できることは話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励し、資格手当を支給している。希望に合わせた勤務表作りに努めている。働きやすい職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修に参加できる機会を設けている。研修後は発表する場を作り、全スタッフに研修成果を伝え、実践へと繋げている。また施設内研修ではテーマごとに担当者を決めて学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/月の地域ケア会議に参加することで交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時や入居時に本人様と家族様から、ホームでどう生活していきたいかをお尋ねしている。また入居されてから居室担当者が決まり、安心して暮らせるよう利用者様に寄り添い信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時にお話を伺い、ホームとして最大限「できること」をお伝えして不安解消に努めている。「できないこと」に対しても他サービス利用や家族様の協力で解決できるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず関わっている他事業所と連携を取り、情報提供を受けている。それを基に本人様、家族様の意向を反映させたプランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、家事、レクリエーションを通して日常にかかわりあう時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折には本人様の状況や変化をお伝えし、一緒に支援していけるよう協力を頂いている。面会に来られない家族様とは電話連絡やメールでの繋がりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て馴染みの方と面会していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の状態や性格を把握した上で座席を決め、孤立しないように関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも一年ほどはその後の様子を伺っている。了承があれば訪問させて頂くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を踏まえ(センター方式の活用)ながらも現在の状況と照らし合わせて本人様の意向をくみ取るように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族様から生活歴をお尋ねしたり、関わっている事業所からの情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員が気付きを申し送りしてケアにあたっている。気付きから「できること」を発見することもある。また身体の変化には経過報告書に記し、関係者が把握できるようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2回/月のミーティングを行いモニタリングしている。可能であれば本人様から直接意見を伺う。家族様からも意見を伺いながら、必要であれば医師に相談することもある。計画が機能しているか常に検討できる体制を整えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気付きは経過報告書に記録し、情報を職員で共有している。常に計画を意識して支援している。問題点発生時はミーティングで計画見直しの話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームとして「できること」の支援をしている。希望・要望には柔軟に対応できるようにスタッフで努力している。「できないこと」の支援にはNPO法人の支援を結びつけて対応している。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の繋がりを継続してもらい、外出される方もある。地域ボランティアも受け入れて交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更は少なく、今までの医療機関で継続治療されている。変更希望時は適切に対応している。家族様が医師に報告しやすいように通いノートを活用して、現在の状態を報告している。歯科は協力医で職員付き添い受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職には体調変化を全て報告して相談している。経過報告書にも記録している。往診の方の場合、訪問看護師には24時間連絡がとれるようになっており、指示が仰げる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医の指示や紹介状をもらい入院治療が出来るよう努めている。入院中は訪問して情報交換し、早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行っていないことは事前にお話ししてあるが、家族様の協力が得られ医師と連携できた場合で家族様の強い希望があった時、可能であったケースが過去にあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防職員から救急救命講習を受けている。研修・ミーティングでも確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年避難訓練を行っている(1回は夜間想定)自治会・消防団・消防署の参加立ち会いをお願いしている。職員の緊急招集に備え近隣の地理に精通するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを傷つけない排泄介助を目指している。職員同士で気になることは話し合っている。反省点は研修・ミーティングで周知し、改善できるように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から様子を観察し、あせらずゆっくり関わる時間を持っている。その結果思いをくみ取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ、本人様の意思を聞き過ぎていただいている。レクリエーションもその人のペースで参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気分が明るくなるような装いを心がけている。バランスの良い色合いやデザインを助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の栽培から収穫、下ごしらえ、片づけを職員と一緒にしている。参加できない方には食事の説明をすることで楽しんで頂いている。食事の要望があれば時に応じて反映させている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量を記録し、少ない方には回数に分ける・嗜好品の提供・形態を変えるなどに対応している。医師とも相談し、目標摂取量を決めて支援している。時には医師から本人様に直接指示をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは非常に大切なものと認識している。毎食後の口腔ケアは習慣づいている。介助が必要な方には職員がケアしている。受診が必要な方は職員同行し協力医で治療してもらっている。		



岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや本人様の行動に注意して誘導や声かけをしている。出来る限りトイレで排泄できるよう工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、水分と食物繊維摂取に心がけている。必要な方は下剤の調整をし便秘の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に日曜日以外は入浴を行っている。何らかの事情で入浴が必要な時は日曜日も行方。入浴時間はできるだけ希望に沿うように配慮しているが、夜間帯は行っていない。必要な方には職員2人体制で支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・休息は個人の自由にされている。夜間眠れない方は眠れるまで職員が話し相手になっている。体が動かせない方は体位変換を行うことで気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には全職員が目を通している。薬の変更は記録と申し送りで周知している。副作用はホームの看護師の助言をもらうこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の買物、家事、散歩を支援している。職員が支援することで趣味の時間も持てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事(イチゴ狩り・花見・旅行等)への参加や、ユニットごとの外食会、買物へ出かけている。これまで課題であった散歩も定着してきた。		

岐阜県 グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭所持はない。希望により小遣い程度所持されている方がいるが使う機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の同意が得られていれば特に規制はなく希望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が入り、明るい空間になっている。車イスが往来しやすいゆとりのある設計になっている。掲示物は季節ごとに張り替え季節感を意識している。利用者様の書も展示し眺められるようにしてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の交流関係が把握できているので、一緒に語り合える空間づくりに配慮できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持参していただき、居室担当者が本人様と相談しながら季節ごとに入れ替えをして居心地良く過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」「お風呂」の表示をわかりやすく掲示してある。入居したての時は表示を増やして覚えやすくしている。トイレには緊急呼び出しブザーが取り付けられている。		